蓬莱(ほうらい)の玉の枝

かぐや姫(ひめ)の美しさは評判となり、多くの人がかぐや姫のもとを訪(おとず)れるようになりました。このなかで、いつまでも求婚(きゅうこん)をつづける五人の貴公子に対し、かぐや姫は難題を出します。貴公子の一人で、※蓬莱の玉の枝を持ってくるように言われたくらもちの皇子(みこ)は、ひそかににせの玉の枝を作らせ、翁(おきな)の家を訪れました。次の文章は、くらもちの皇子が語った架空(かくう)の冒険談(ぼうけんだん)です。

船の行くにまかせて、海にただよひ(イ)て、五百日といふ(ウ)
船が行くのにまかせて、　五百日目という（日の）

※辰(たつ)の時ばかりに、海のなかに、はつかに山見ゆ。（中略）
辰の時頃に、　かすかに山が見える。

海の上にただよへ(エ)る山、いと大き(オ)にてあり。その山のさま、
たいそう大きなものである。その山の様子は、

高くうるは(ワ)し。これや我(わ)が求むる山ならむ(ン)と思ひ(イ)て、
これこそ私が求めている山であろうと　思って、

さすがに恐(おそ)ろしくおぼえて、①山のめぐりをさしめぐらして、
そうはいってもやはり恐ろしく思われて、山の周囲を　こぎ回らせて、

二、三日ばかり、見歩(あり)くに、天人のよそほひしたる女、
見て回っていると、天人の服装をしている女が、

山の中よりいで来て、銀(しろかね)の金鋺(かなまる)を持ちて、水をくみ歩く。
出て来て、　銀のおわんを

これを見て、船より下りて、「この山の名を何とか申す。」と問ふ(ウ)。
何と申しますか。

女、答へ(エ)ていは(ワ)く、「これは、蓬莱の山なり。」と答ふ(ウ)。
答えて言うことには、

これを聞くに、②うれしきこと限りなし。
うれしいことこの上ない。

※蓬莱…蓬莱山。古代中国の伝説で、東海の中にあり仙人が住むという。かぐや姫は、この山に立っているという玉（宝玉）の実がなる木の枝を持ってくるよう求めた。

辰の時…午前八時頃。

重要語句

さすがに	そうはいってもやはり
おぼゆ	思われる・感じる
いはく	言うことには

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣い（づかい）に直し、ひらがなで答えなさい。

よそほひ

［　　　］

(2) ——線①「山のめぐりを……見歩く」とあるが、なぜ山の周囲を見て回っていたのか。適当なものを選びなさい。

ア 山がたいへん高く、美しかったから。
イ 山が恐ろしく思われたから。
ウ 山が蓬萊の山ではないと思ったから。
エ 山にいる天人の姿が見えなかったから。

［　　　］

(3) ——線②「うれしきこと限りなし」とあるが、なぜうれしかったのか。適当なものを選びなさい。

ア 天人に会うことができたから。
イ 着いた山が探し求めていた山だったから。
ウ ようやく船から下りることができたから。

［　　　］

(4) 次の本文中の言葉の中から、「天人のよそほひしたる女」の行動ではないものを選びなさい。

ア 山の中よりいで来て
イ 銀の金鋺を持ちて
ウ 船より下りて

［　　　］